

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の力で地域の認知症の方々を、どれだけ支援できるか？ 家庭に居るのと同じように、自然の流れの中で個々の自立をどれだけ高めていけるか？ “自然に寄り添い心からの笑顔を” を事業所の理念としている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員は利用者と同じ目線になり、利用者の中に溶け込んだ支援を目指している。理念を共有し、実践につなげていく様にしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>毎月 “こもれび新聞” を発行。施設内の活動報告を、地域170班に回覧し、ご家族には毎月送付している。地域の方からは、“新聞見ているよ” と声をかけていただけるようになった。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>開所時は、地域の人からのアクセスがまったくと言っていい程なく、施設から地域へのアクセスを積極的に試みる。今は、やっと日々の散歩時に、気軽に声がけをしていただけるようになった。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>施設長は、地域の一事業所として、自治会の行事や会議にも積極的に参加している。施設内の行事には、地域の保育園や小学校、地域で一芸をお持ちの方々に参加している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献をするなど、まだまだ先のことと思うが、認知症対応の施設として、様々な場で認知症の啓発活動をしていきたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者だけでなく職員も参加して行う、毎月のケース会議などで話し合い、具体化し、現場での取り組みにつなげる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月以降、5回の運営推進会議を開催した。開所当初から、災害や徘徊などの緊急時対策に助言をいただき、連絡網やSOSサポートなど、地域の協力もいただいた組織立てができた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の市担当者に、多方面で助言をいただき連携を図っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設にとって第三者機関が必要で、利用者のご家族からの相談にも対応できる組織立てをしたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止規程に従い、施設内に委員会をつくった。虐待防止研修に努めて参加する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に十分な面接を行い、利用者の生活歴等の把握をし、施設体験を経て入所契約を結ぶ。その際、重要事項の説明は時間を取って説明する。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設玄関に、苦情BOXを設置している。苦情相談員を設け、玄関に表示している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>施設内の行事や、暮らしぶりは月1度の「こもれば新聞」の送付でご家族に知らせている。個々の出来事などは、電話や面会に来られた際、時間を取って報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族を交えた施設行事(バーベキュー会など)を企画したり、家族会を設け、率直な意見交換の場を作りたい。</p>	<p>○ ご家族との意思の疎通は、常に図っていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一度のケース会議で、運営にも関心を持ってもらい、職員からの要望や意見を気軽に言ってもらえる関係でありたい。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜勤者が、安定し良いリズムで、職員のシフトが組めるようになった。施設と同じ区内に住む職員が、緊急時の助っ人になっている。総括施設長の自宅が、施設から150メートルの所にある事も、職員の安心感につながっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在10ヶ月目にして、やっと馴染みの関係が出来てきている。隣接のデイサービスの職員との異動も、現場に支障をきたさない状態で行っていきたい。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>常に勉強する姿勢で、経験年数を満たした職員には、専門研修や資格試験にも挑戦してもらっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設開所前、採用決定した職員13名(パート職舎)は、1週間の他施設研修をもらった。これからも、グループホームも隣接のデイサービスも、他施設との交換研修を積極的に取り入れていきたい。</p>	<p>○ 他施設との交換研修を定期的に行い、我施設の良い所と悪い所の再確認をしていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフも利用者と一緒に楽しむことができる行事を計画しているが、自らも何か趣味を持ち、ストレスを溜めない様にと声かけをしている。ケース会議の折には、いろいろな相談を受けている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>先日、職員能力チェック表で個々を評価してもらった。自意識を高めるきっかけにしてほしい。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に、ご家族同伴で十分時間を取っての面接を行った。利用者の生活歴はもちろんのこと、趣味や好み等仔細にうかがい、これから先のホームでの生活で、信頼関係を早く築くために役立っている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所契約時には、施設から一方的な契約内容を説明するのではなく、ご家族の利用者に対する思いをしっかりと聞き取ることに努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前項で聞き取ったご家族の思いを考慮に入れ、利用者がその人らしい生活をし、心からの笑顔で居られるよう支援していく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開所時の利用者は、2・3日の体験をしていただいた。入所時の不穏もこれで軽減されたように思う。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の能力を生かし、職員と一緒に家事や作業を行い、その中で今までに培ってきた知識を活用できるような場面作りに努めている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活歴、習慣などを知ることが、ケアに密接に関係することも多く、ご家族より情報を提供していただいたり、施設であった些細なことでも、電話や手紙で連絡をとるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の負担にならない範囲で、外出や外泊をしていただいたり、遠方のご家族には疎遠にならないよう、連絡をとっている。面会の時には、日頃の様子を利用者も交えてお話している。職員と利用者、ご家族が同じ位置で輪になることが良い関係につながると思っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・知人の来訪は、利用者に関する新しい気づきがあったりする。いつでも自由に訪問していただくようお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格やその日の心身の状況を把握し、利用者に応じた役割分担をして、お手伝いをしてもらっている。利用者の秘めた技量を発見することもあり、お互いの労をねぎらう微笑ましい光景も見られる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開所以来、初めて他の医療機関へ移られるケースがあり、職員も私的な時間に様子を見に行ったりして、現在もかわりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面接シートで、利用者の生活歴をしっかり聞き取り、自己表現の困難な利用者も、日々の生活の中での何気ない一言や表情から、本人の思いや本心を読み取るようにしている。傾聴する心を持つように努めている。	○	ゆっくり話を聞く時間を持つようにしたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されてから、日々の会話で知り得る事も多く、声かけに努め、昔話を聞かせてもらい、利用者の暮らしぶりを把握している。利用者の自宅近隣の人からの情報も大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の利用者の心身の状況を見極め、個々の変化や行動に注意しながら、総合的な把握に努めている。1日の介護記録は、詳しく記録している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時の利用者の状態と家族の思いを考慮に入れ、初期介護計画を作成した。その後は職員がそれぞれのモニタリング表に書き留めたものを持ち寄り、ケース会議に諮り、集約したモニタリング報告を計画変更の際、ご家族に知らせている。	○	プラン作成の勉強会、研修に積極的に参加したい。ご家族に、利用者の介護計画内容を説明する時間を十分にとる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングに加え、状況が変化した場合は、それに応じて計画を作成している。	○	家族との話し合いの場を増やしていきたい。施設任せでなく、共に利用者の生活を考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を執りながら、情報を共有し、更に重要な事項は口答で確認し合ったり、連絡ノートで全員に周知徹底をする。常に介護計画を念頭に置いて実践するように努めている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接の通所施設の利用者と一緒に、お茶を飲んだりすることで話題が多くなり、会話も弾むようになる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域との交流は、まだまだと思っているが、運営推進委員会は地域の自治会、老人会、民生委員、施設協力医、利用者のご家族、益田市地域包括センター職員で組織を組み、助言を得ている。ボランティア協力として、徘徊SOSサポート組織を立ち上げた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	開所当初から、近く的美容院に出張カットをしてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に一度の運営推進会議に出席いただき、総合的な指導・助言をいただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、かかりつけ医は利用者のご家族の意向を尊重している。施設協力医をかかりつけ医とした利用者は、ご家族の負担軽減のため、月1度の往診日に受診している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所後も継続して専門医を受診されている人は、現状の情報提供をご家族を通じてさせていただいている。紹介状をいただいて、内科医である施設協力医に変更された利用者もいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	バイタル等に異常が出たときは、すぐに看護職員(隣接通所施設)に相談し、助言をもらったり、看護職員からかかりつけ医に相談してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	開所以来、初めて他の医療機関へ移られるケースがあり、すぐに病院の相談員(ソーシャルワーカー)と会い、様々なケースを想定した上で連携をとった。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の面接で、終末期に対するご家族の思いをしっかりと伺っているが、施設からも家族会などの場を借りて、話し合いをしていきたいと思っている。	○	今後の重要課題である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族の思いが最優先だが、“終末期は我が家の畳の上で”に少しでも近づけるよう、“こもれびの郷のベッドの上で”にこの先はかかりつけ医との相談を密にし、終末期に向けた職員の連携体制を構築していきたい。	○	重度化や終末期に対するケアの勉強会や、研修への参加に努める。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療機関の担当者と情報交換し、ご家族・利用者にとって最適な方法となるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報保護について、職員はもちろん、施設に出入りする業者とも契約を交わしている。利用者になりがかった際、誇りやプライバシーを損ねたのではないかと問いかけてみることを徹底したい。	○
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に応じた声かけをし、じっくり話すことで本人の理解を確認する。押し付けや、過剰なケアはしないように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても時間に行動を合わせがちになることが多く、もう少しゆっくり利用者のペースに添って支援するよう心がける必要がある。	○ もっと個別ケアに力を入れていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近くの美容院の出張カットは、希望に応じて利用でき、入所前の馴染みの美容院に今も行かれる方もいる。施設からの誕生プレゼント(服や靴など)の買い物は、好みを重視してホーム長同伴で出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑の野菜を収穫していただき、食事作りには出来るだけ参加してもらっている。米とぎ、野菜切、盛付け、配膳など、利用者の能力に合った作業を、職員と一緒にやっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望を取り入れて飲み物を出したり、行事ではアルコールの好きな人には対応している。おやつも、手作りのものを取り入れている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意のない利用者も、排泄チェック表から早めの誘導をしたり、サイン(落ち着きがなくなるなど)を知ることで、失敗を減らすように気をつけている。トイレが居室外にあることが排泄の支援に幸いていると思う。失敗の少ない人には、徐々にショーツへの切り替えの試行をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ほぼ全員毎日される。時間については夕食前に済まされる傾向になってきた。時間をゆっくりとり、湯加減も好みで調整している。入浴時は、利用者との会話が弾み、貴重な時間となっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来るだけ眠剤や安定剤に頼らず、夜間不穏になられる方に対しては、和室で添い寝をすることで安心されることもある。また、夜間の安眠につながる様、一日の過ごし方を工夫している。こたつの利用も評判が良い。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	千羽を目指して、折鶴に夢中の方。月に一度の御詠歌の会を楽しみにしている方。日々決まって同じ時間に帰宅願望のある利用者に対しても、「ダメ」を言わず、荷物を持って一緒に外に出る気晴らしの支援をしている。	○	閉じこもりがちな利用者への対応を考える。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際、買い物に行かれなくても現金を所持していただきたい方については、少額ではあるがご家族が渡されている。ほとんどご家族の管理。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々のスーパーへの買い物は、その日の希望者1・2名と出かけている。月に1・2回、大型店のイベント日には、声かけをし出かけるようにしている。時には、ご家族と一緒に個別で外出(自宅や温泉など)している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春と秋の遠足や、花見・紅葉狩りなどの計画はもちろんだが、利用者に応じて外食や美術館鑑賞などは、これから取り組んでみたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での連絡は、利用者の希望のある時はいつでも出来るよう、ご家族の協力を得ている。子供さんが遠方の利用者は、手紙のやりとりの支援をしている。	○	年賀状や暑中見舞いなどのハガキを書くことの支援。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間については、時間制限はせず、自然なかたちをとっている。訪問された場合には、再度の訪問をお願いしたり、居室で周囲に気兼ねなく会話が出来よう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はもちろん、言葉での拘束をしないをモットーとしている。その分、ご家族には万が一の事故は時を選ばず起こり得ることの理解をいただいている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵を掛ける事は、まったくない。開所以来、2回の徘徊ひやり・ハットがあった。今も、1日の生活リズムの中で、強い帰宅願望のある利用者が1名と、定期的に起こる方が2名おられる為、自動ドアの調節している。	○	利用者の介護レベルにより、この域も変化することと思うが、介護度合いが大きく左右するように思う。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は利用者の中に溶け込むケアを目指しているため、ミーティングも見守りをしながらホール内で行っている。常に徘徊される方、外に出たがられる方については、所在確認に努め、居室で過ごす時間の多い方についても時々訪室し、声かけをするように心がけている。夜勤帯では2回の巡回時間を決めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物品(消毒液等)は、鍵付庫の中に収納している。台所の包丁や洗剤などは、使用后必ず決まった所に収納する。夜勤者は、入勤時にチェックするチェックリストを作成し、確認の徹底をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	食事時に起こり得る事故防止は、声かけの徹底を図り、行方不明や災害等は、緊急時の避難訓練等のシミュレーションの徹底を図り、現場に掲示している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急法は開所前に職員全員習得しているが、再確認の為に年1回の講習を計画したい。	○	毎月のケース会議で、意識を高める為の再確認をする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の非難・消火・通報の訓練を行っている。災害時の避難場所の徹底や、消火器の設置場所、非常口の確認は毎月のケース会議で徹底を図っている。	○	近隣住民の協力をお願いする。認知症の高齢者の施設であるということで、非難時の器具の常設を今検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の面接時には、さ細なことで利用者の現状を報告し、日中・夜間を問わず、緊急時にはご家族に連絡する体制を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況の把握(バイタル・表情・食事摂取量など)小さい変化もスタッフが共有するようにしている。看護師(隣接通所施設)の助言や、施設協力医とも連携をとり、必要に応じてご家族への連絡をとるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、名前・用量・内服まで確認している。薬の変更があった時は、2・3日の様子を詳しく記録し、症状の変化があればかかりつけ医に相談し、指導を依頼する。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の食事の栄養バランスはもちろん、水分摂取に気をつけ、乳製品をおやつに上手に取り入れるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、ホール内の洗面で行うようにしている。寝る前の義歯洗浄の支援も必ず行っている。自歯の人には大切にさせていただきよう、歯磨きの励行をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の食量・水分摂取量は、毎食後記録している。食の細かい方には、盛り付けの工夫・量の加減などでバランスよく食べていただけるようにしたり、自分のペースでゆっくり食べていただいている。水分はお茶だけでなく、好きな飲み物(コーヒー・ドリンク)でとっていただいている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>インフルエンザ予防で、利用者はもちろん、職員も全員予防注射をし、流行期は来訪者にも入り口で手指の消毒をいただいている。ノロウイルス対策は、シュミレーションを用意し、緊急時にすぐ対応できるようにしている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>買い溜めを減らし、新鮮な食材を使うように心がけている。施設の畑にない野菜も、地元の野菜市で求め、地産地消をモットーとしている。冷蔵庫内のチェックをマメに行い、調理用具も使用後の衛生管理を行っている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関周りは、季節を感じ取れる工夫をしている。なだらかなスロープと、三面の花壇、放射状のステップが開放感のある造りとなっている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホール内は、利用者に季節感を与える演出の工夫をしたり、音楽を流したり、リラックスできよう工夫している。来訪者に日頃の様子がわかるよう、行事の写真を掲示している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳のたまりスペースや、施設内にベンチを設置し、利用者が自由に仲の良い者同士で会話ができるよう工夫している。畳のたまりは、春や秋のポカポカ陽気の日、昼寝の最高の場となっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で馴染みのある椅子やダンスを持ち込み、ご主人やご家族の写真に囲まれた生活をされている方もいる。ただ、日中はホールや和室ばかりで過ごされ、居室は寝るだけという方も2・3人おられる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設内の気温はこまめにチェックし、居室とホールの温度差があまりないように気を配る。冬の乾燥する時期は、ホール内には加湿機を置き、居室内は濡れタオルをかけ、乾燥しすぎないように工夫している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の日々の動きを見て、開所以降もいろんな所に手摺を追加で設置したり、視力低下が見られる利用者の為に、浴室の手摺に色テープを巻いたり、職員の工夫も見られる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱・失敗があっても、さりげなく対応し、出来ること・出来ないことを見極め、能力を生かしてその人らしい生活が出来るよう支援している。自分の部屋はほとんどの方が解るようになり、施設が馴染みの場になりつつあるように思う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設自慢の広い庭は、多目的な活用をしている。一画の施設菜園で、旬の野菜作りをしたり、朝晩の軽い散歩や天気の良い日は庭でお茶を飲んだり、グランドゴルフもしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 広い敷地に施設自慢の庭を設けている。庭の一角を畑にし、旬の野菜を利用者と共に育て、収穫し、食材として利用している。四季の変化を、ホールから感じ取れる庭となっている。朝夕の軽い散歩や、グランドゴルフなど、良い季節には多目的に利用している。

* 地域との協働

開所後、施設側からのアクセスを試みた。地域の方々の理解を得て、“徘徊SOSサポート組織” や、“第三者委員会” を立ち上げた。これから先、万が一の時だけでなく、自然なかたちで様々な方面から助言をいただき、地域とのつながりの足がかりとしていきたい。